

平成 28 年 1 月 16 日

北関東フォーラム

於：シムックス

## 中斎塾 北関東フォーラム 平成 28 年度第 1 回

### 今年は一触即発の危険性

皆さま新年おめでとうございます。良い年になりますように祈念致します。良い年になるかどうかは、自分自身の心持ち次第だと思っています。

今年、丙申（へいしん・ひのえさる）です。「丙」を語源からみますと、大きな門構えがあって、その中に陽氣が充満するという意味です。充満した陽氣が限界に達すると当然陰るわけですから、一見良さそうな滑り出しであるけれども、氷が割れて下に落ちる可能性が非常に高いと思って下さい。「申」は稲妻ですから、それが突発的に起きます。

更に、加藤常賢先生の解説には、「丙」の文字の上の「一」は犠牲者の首を押し出すしぐさを表すとありますから、今風に解釈すれば、アベノミクスが失敗し犠牲者の首がさらされ、日本が奈落の底に向かって進んでゆく可能性が非常に高くなった。今年はそのような状況下にあると思っています。

これを戦争で見れば、第三次世界大戦は既に始まっている。そのことに日本国民は気付かないでいるだけだという話が、今年一年の間に急激に出てくる危険性がかなり高いと思っています。

一つの例を申しますと、ローマ法王が昨年暮れのミサで、「来年のミサは開かれぬ可能性が高い」と発言したそうです。それ以前に出した回勅では、人類が滅びる時期が近づいていると警鐘を鳴らしました。

また、イスラム教とキリスト教の対立という根っこの部分から、今や、イスラム国という過激集団によって世界がテロの対象にされています。テロは平穏無事な日常に突如として起きるわけですから、日本国内でも、今年にはテロが起きる可能性は非常に高いと感じています。

更に、何度も申し上げているように、再び大きな自然災害が起きる危険が高いと思っています。

もう一つ、きな臭い話は中国です。周近平が暗殺される危険性を未然に防いだという話は、何度も伝わって来ています。周近平はゴルバチョフと同じ役割をもって国家主席になったと云われています。つまり、中国が民主主義国家になるための引き金を引くのが周近

平の役割です。国家主席になった頃は穏やかな印象でしたが、どんどん過激な動き方に変わってきています。最近起きた天津の爆発では約二千人の軍人が死んでいると言われますが、これは周近平と長老との暗闘で、周近平が勝利したという状況と捉えてよいでしょう。尤もこういう報道は、公には一切出ていませんので、他の方にはあまり話されない方が良いでしょう。ですから中国という国はひっくり返る可能性が高いと思っています。

これを裏付ける一つの話として、加瀬英明さんの書かれた本『アメリカ・中国・中東はどうなつてゆくのか』（勉誠出版）に、面白い話がありました。「全体主義国家がオリンピックを開催すると、九年後に体勢が崩壊する」と、ご自身がアメリカで講演された話で、アメリカの新聞では「加瀬の法則」と紹介されているそうです。ドイツはベルリンオリンピックが行なわれた九年後にナチスが崩壊し、ソ連はモスクワオリンピックの九年後にソ連邦が崩壊した。この原則が正しければ、中国も北京オリンピックの九年後、二〇一七年前後に共産主義体制が崩壊するのではないか・・・という内容です。加瀬さんはかなり断定的な言い方をされていますが、確かに世の中を眺めていると、きな臭い話が実に多くなつたと感じます。一触即発が目の前であるという感じが致します。

ですから今年は、平穏無事に行くような状況がずっと続いていて、突如として何かが起きる。そういう年だと思っていますので、どうぞご注意戴きたいと存じます。食べ物は自給自足出来るようにしておいた方が良かろうと思いますし、出来るだけ遠くの親戚や友人・知人と連絡をとって、何かあった時にはお互い助け合えるような関係を構築しておくことをお勧めします。

## 恒例の質問

では、恒例の質問を致します。今年に入って半月経ちましたので、半月間でお考えください。

### ○ 良い日が続いた方

良い日が続くのは大変良いことだと思います。心も穏やかになるし、人さまに対して寛容の精神が広がります。

### ○ 嘘をつかなかった方

今年は是非テレビを見る時、アナウンサーやニュースを伝える人の眸子（目の中の瞳）を観察して下さい。心ここに在らずだったり、嘘をついていると目が泳ぎます。私が意識して見るのは、中国・ソ連・北朝鮮の報道官やアナウンサーの目です。中国の女性報道官は時々目が泳ぎますから、これは自分の良心の呵責に耐えながら喋っているなど感じます。北朝鮮の女性アナウンサーは確信犯ですから、なかなか見抜けません。ニュースを読み上

げる人の目をよく見ると、その話が眉唾かどうか感じるものです。

○ 有難うと言ひ、有難うと言われることが多かった方

年配になればなるほど周りが氣を遣って色々やってくれますから、有難うと言われることが少なくなります。ですから有難うと言われなくなったら危ないと思って下さい。有難うと言われたなら、「自分は人さまの為に何かして差し上げている、なかなか良いぞ」と満足できます。

○ 健康法を続けている方

私は今年から、腕力の強化・太ももの強化を始めました。七十四歳まで現在の体力を維持したいと思っています。現状の体力を維持するためには、少しハイペースでやらないといけません。

○ 昨晚寝る時に、明日以降のことを過去形でイメージして眠れた方

だんだん手が挙がる人が増えてきました。素晴らしいですね。前回、明日のことを過去形でイメージする具体例として、夜寝る時に「明日はこれをやるぞ！良かった・良かった・出来たぞ！」とワクワクして眠りにつくようにご紹介しました。やりたい事が沢山あるというのは若さを保つ秘訣でもありますので、お勧めします。

○ 自分磨きをしている方

自分磨きは事上磨錬がよろしいですね。事上磨錬とは、日常生活の中で自分を磨くことです。是非、続けて下さい。

### 「足るを知る」とは、食らないこと

中斎塾フォーラムの基本哲学は「知足」です。吾ただ足るを知る・・・これは日本人にはすーっと入って来る考え方です。ただ、外国の方にはなかなか理解しにくいと思います。

昨年九月、ベルリンで開かれた環境問題の専門家が集まった会議で話をさせて戴きました。環境問題は今、行き詰っている。ここ十数年、人類を救うための議論を詰めているが、「愛」と「魂」の問題に行きついて、そこから先が止まってしまうのだそうです。そこで、木内孝顧問から、「愛」と「魂」について私の話を聞かせて欲しいと要請がありました。

そこで私は、「足るを知る」という考え方が日本人の未来を切り開き、世界を救うキーワードになるであろうという話を致しました。それをヒントに、その後の議論が沸騰し、世界に向けて発信をしたいということになったようですので、「足るを知る」という考え方が世界に広がるだろうと期待しています。

私達が考えている、また実践している「足るを知る」とは、一言で言うと「食らない」ということです。もっともっとと食らず、ここら辺で満足する自制心が「足るを知る」に

直結するのだらうと思います。食事の時、めいっぱい食べるのではなく、ほどほどの腹六分目くらいで止めておく。「足るを知る」とは「食らない」と置き換えて考えれば、素直に自分の心の中に納得できます。

## 論語を読む

今月末に群馬県の或る大学の公開講座で論語の話をして来ます。論語の講座をずっと受講しておられる方々向けですので、「論語を現代に置き換えて考える」というテーマで、学問の為の学問ではなく、学者の方は論語をこう読まないだらうという視点でお話しようと思っています。それは、世界の視点・日本の視点・経済の視点・政治の視点・食の視点です。食の視点とは、論語の中に、孔子は外で売っている食べ物は口にしない、自宅で作ったものしか食べないといった記述がありますから、食に対して非常に気を遣っていたということが分かります。

では、本日の論語の解説（憲問篇）に参ります。今日の福島幹事の素読は、間をあける所も強調する所も文句ありません。かなり読み込んでおられますね。テキストの『素読論語』は、誰でも簡単に読めるように意識して作りました。間をあける所は意識的に間隔を空けていますので、ルビ通りに読んでいけば、それなりに上手く読めるような仕掛けがしてあります。

【一八】子貢曰く、管仲は仁者に非ざるか。桓公 公子糾を殺すに、死すること能わず。又之を相くと。子曰く、管仲は桓公を相け、諸侯に覇たらしめ、天下を一匡す。民 今に到るまで其の賜を受く。管仲 微かりせば、吾 其れ被髪左衽せん。豈 匹夫匹婦の諒を為し、自ら溝瀆に経れて、之を知らるること莫きが若くならんやと。

子貢は口八丁手八丁、アイデアも豊富で、孔子塾のお金の工面でも才覚を発揮しました。

子貢が孔子に聞きました。「管仲は仁者ではありませんね。桓公が主君である公子糾を殺した時、殉死をしなかっただけでなく、桓公に仕え助けました。」

孔子が答えました。「管仲は桓公を助けて天下の覇者たらしめ、天下を正しく改革した。国民は現在まで管仲の恩恵を被っている。もし管仲がいなければ、我々は今頃、ざんばら髪で衣の襟を左前にあわせているだらう。どうしてこういう人物が一般大衆と同じように、首つりをしたが溝に放り込まれて誰にも知られずにいるようなことになるだらうか。」

孔子はここでは管仲を仁者だと評価していますが、別の章では器が小さいと評価してい

ます。話をする相手によって、上げたり下げたりと意識して論評しています。

何度も申し上げますが、論語は現代の時勢に置き換えて考えたり、自分自身の人生に置き換えて読んで下さい。

安倍政権で考えてみると、例えば、谷垣さんは仁者かどうか……。谷垣さんは阿部さんを総理大臣と認めて自分は幹事長で応援していますが、あわよくば総理総裁の道が開けるかもしれないという動きをしているような気がします。安倍さんが打っている手は、「民今に到るまで其の賜を受く」ののだろうか……。消費税を上げるとか法人税を下げるとか、民間企業の経営者に直接給料アップを要求するなど、やり過ぎ・行き過ぎだと思います。安倍さんが総理大臣を退いた後に、「自ら溝瀆に経れて、之を知らるること莫き」という状況があるかどうか……。等々、想像しながら読んでみると面白いでしょう。

自分自身に置き換えて考えると、「民今に到るまで其の賜を受く」の部分で、自分自身が今こういう人生・こういう状況であるのは何のお陰を蒙っているのだろうか、時々考える必要があると思います。渋澤栄一が一橋家に仕えた時、手持ち金がなくて、一橋家の家臣からお金を借りたという話は色々な本に書かれています。渋澤栄一は全額返済した後も、お金を貸してくれた人には、ずっと盆暮れの付け届けをきちんとしていました。

私も、お世話になった人にはずっと年賀状を出し続けていますし、相手の方からも返信を戴いています。一度お世話になった人とは、ずっとお付き合いを続けるが良いだろうと思います。

【一九】公叔文子の臣 大夫 僕、文子と同じく諸を公に升らしむ。子 之を聞いて曰く、  
以て文と為すべしと。

公叔文子の家臣である僕は、文子の推薦で大夫に昇進した。

孔子がこれを聞いて言いました。「(自分の陪臣を朝廷に昇らせるような) そういう人物であれば、亡くなった後に文という良い諡(おくりな)を受けても恥かしくない。」

自分の周りに良い人材がいれば、その人物を見抜いて、その人が力量を発揮できるような所に押し上げてやる、或いは引っ張り上げてやる事が出来れば素晴らしいと思います。

中斎塾フォーラムで考えると、良い人は良い人を見い出し、良い人と良い人が結びつくと、点と点から線になり、やがて面になります。本日、井澤幹事が前橋木鶏クラブの会員さんをお連れ下さいましたが、中斎塾フォーラムと前橋木鶏クラブ、或いは群

馬郷学会と、それぞれの会が繋がりがあってきたという印象を持っています。

### 総合的直観力を養う

本日のテーマは総合的直観力です。中斎塾フォーラムで学んでいると、知らず知らずのうちに論語が身体に入ってきて来ます。また、論語を解釈するのに朱子学と陽明学がありますが、私は陽明学の視点ですので、陽明学の考え方が自然と入ってきて来ます。それと、木内先生が言われた総合的直観力が入ってきて来ます。

ご紹介する本は、木内信胤先生が書かれた『國の個性』（プレジデント社）です。この本の冒頭に総合的直観力について次のように書かれています。

この本はいくつかの「ひらめき」に導かれて書いたものです。ですから、通常の本とは、大いに違ふところがあります。「知識の集積」によって書かれたものではないからです。「ひらめき」とは何か。理屈を離れて、「あっ、さうだ」とわかる、その心の働きですが、それは、「総合的直観力」と呼んでもいいものです。

木内信胤先生の総合的直観力について幾つかご紹介します。木内先生が「ベルリンの壁は無くなる」と言われて三ヶ月後、現実になりました。また、「ソ連はそのうち駄目になる」と言われ、暫くしてソ連邦が解体してロシアになりました。先生はその理由について、「親不孝者が考えた思想だから」と言っておられました。また、「国民を騙し続けるのは、せいぜい百年が限度だ」とも言っておられました。もう一つ、「アメリカはもの凄い勢いで転落している。世紀が変わる頃には誰でも分かるようになる」と言っておられました。今、アメリカが発展していると思う人はいませんね。

これらはすべて、総合的直観力によって導かれたものです。我々も見たり・聞いたり・読んだりして色々な情報をどんどん貯めて、それを発酵させていくと「ひらめき」が生まれます。その「ひらめき」がたくさん貯まって来ると、総合的直観力になります。私はフォーラムの講話の中で意識的にあちこちに話を飛ばしています。これは総合的直観力を養うための方策だとお考えください。

### 新聞はヒントとして活用するもの

私は中斎塾フォーラムで数年前から、新聞等のメディアを見る時の三つの視点についてお話しています。民主党が政権をとった時には、民主党の打つ無様な手を見て下さいと申しました。今の自公連立政権は良い事と悪い事がごちゃ混ぜに入ってきて来ますから、自公政権の打つ手を是々非々で見て下さい。二つ目、自然災害は起こりますから、そのつもりで

新聞記事の小さい記事を見逃さずによく見て下さい。三つ目は、国債の動向です。それにはアベノミクスではなく、アベクロミクスを意識して下さい。特に、安倍首相の発言と黒田日銀総裁の発言を並べてみて下さい。昨年の始め頃、黒田総裁は安倍さんに梯子を外されて腹が立っているという報道が若干メディアに取り上げられました。そして経済財政諮問会議での黒田総裁の発言が議事録から削除されました。

話が飛びますが、議事録の削除で思い出したのが中曽根康弘さんです。一九五六年の日ソ共同宣言を批准した衆議院本会議での中曽根さんの演説は、ソ連に対する厳しい批判だということで議事録から削除されるという出来事がありました。しかし、中曽根さんはその演説を新聞社に持ち込んで、結果的に全文が掲載されました。

中曽根さんと今の安倍さんを比べると、かなり類似性があると思います。中曽根さんが政権をとった時、日米関係も日韓関係も最悪の状況でした。中曽根さんはアメリカに訪問する前に、電撃的に韓国を訪問し日韓関係を修復しました。そして防衛費の増加や対米武器技術供与という手土産を持ってアメリカに出かけ、日米関係修復にも成功したわけです。安倍さんも視点を外国に向けていて、中曽根さんを意識している部分があるように思います。中曽根さんとレーガン大統領が中央で並んで映った写真はかなり新聞に載りましたが、その中身は何なのか、水面下のやり取りについては報道されていません。

ですから新聞等のメディアを見る時には、表面に出て来たものの中身を見る必要があります。新聞は今、新聞としての役割を果たさなくなったと私は思っています。以前は新聞に書いてあることは五分五分で見て下さいと申しました。今、五分五分で見るのはネットでしょうね。新聞は、こういう問題があるというヒント、きっかけを出してくれるものだと思います。

では最近の新聞から、おやっと思った記事を申します。私が意識して見るのは、誌面に小さく掲載されるような記事です。

・おおさか維新 予算委員会を欠席（1／9 読売新聞）・・・民主党が、おおさか維新の会の質問時間を与党か野党か分からないという理由で削ったので、おおさか維新の会の議員が審議を欠席したという記事です。民主党がおおさか維新の会に対して意地悪しているのだという部分をヒントにして、もっと詳しく知りたければ、その辺りをネットで調べればよろしいでしょう。

・植物工場から安心野菜（1／9 読売新聞）・・・パソナグループ本社の温室で栽培されているトマトの写真が掲載されています。先月視察に行ったハウステンボスが運営して

いる「変なホテル」でも、レストランにはガラス張りの野菜工場があって、無農薬の野菜が育っている様子が見られるようになっていました。これから野菜は工場で作るようになる、そういう取り組みがどんどん進んでいるなと感じました。この記事にはパソナグループやモニカファームの野菜工場の他、銀座の伊東屋のレストランでは実際に食べることが出来ると書いてありますから、今度行ってみたいと思っています。

新聞を見て自分のアンテナに引っかかる記事があったら、ネットで調べて、実際に自分で出かけて見聞きする。新聞は、自分が動くきっかけにするとよいでしょう。村井会員は住宅の建築をされていますが、例えば野菜工場の設備がある住宅を建てるとか、ご自分の仕事に役立つヒントも見えて来ます。

ということで、もう新聞に書いてあることは信じてはいけません。是非、新聞はヒントとして役に立たせて下さいと申し上げて、本日の講話を終了致します。有難うございました。